

活躍する

高津クラブ

勢

一度ハンドボールの味を覚えると、それが何か麻薬でもあつたかのように、二度と忘れられず、のびる多くの人が、誰かがこらいつていたのを覚え

あの手ボールの味を忘れてか、現在も、大学で、いやそれだけでなく、社会に出てもな

は忘れられぬ、よきスポーツであるからこそ、うなづけるものがある。先年、関学において、本、津田両氏が全日本学生王座選手権等で活躍

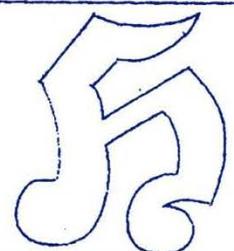
津クラブ所属者の、大学現役選手としてのハン、津クラブ球界における活躍もめざましいものが

ある。去る二月（36年）第四回世界ハンドボ、ル室内選手権大会出場の日本選抜チームの壮行

試合に、大坂選抜チームの一員として、我クラ、ブより中江、浅野両氏が出場された。善戦奮闘

で、日本選抜チームをもう一歩でくすという所ま、に全くとつて好試合を展開した。又、東西学生選

出場で、今年、中江、服部、浅野の三氏が出、場、昨年、今年、中江、服部、浅野の三氏が出、あ、西軍に加わられた各氏の健闘は、みごとなもの





勢の活躍は目をみはるものがあり、中江氏を擁する同志社大学は、中江氏の攻守の活躍にのちに、秋期リーグ戦で優勝した。学生王座選手権では芝浦工業大学に8対3で惜敗した。関学では、榎本、津田両氏卒業後、バツクに服部氏の活躍がある。京大では、バツクスの重鎮であり新主将となつた石崎氏、それに関西ハンドボール球界きつての強シニエーター、彼がいなければ京大の現状維持は難しいといわれる程の浅野氏、今年入った井口氏、大阪府立大学では、名キーパーの辻本氏、ハーフバツクセンターの高田氏、そして土井氏、市大では白井氏、小林氏、大前大には倉橋氏、林氏、又、卒業して後に新しく高津クラブに入った人、高校で途中退部した人を含むには、阪大三國氏、神戸大の高田氏、大前大の川崎氏、安岡氏等各校で活躍しておられる。特に中江、浅野両氏は京群クラブにも属しておられ、全日本総合選手権室内選手権等、各種の大会で気を吐かれた。又、今年度の関西学生ハンドボール連盟において中江氏が委員長、服部氏が副委員長の職をなせしめられた。今年は辻本（味の素）、中江（朝日新聞社）、高田（不二電機）服部（五十嵐電機）等が卒業されるが、来年度も石崎、浅野、両氏等を中心とする高津勢は活躍するだろう。そのために、高津クラブも繁栄の道をたどるのである。

1961.1.18. 3
 (T・H記)

